

『学校力向上に関する総合実践事業』 コーナー その4-①

今月は、「本校の取組の成果・課題の積極的な発信」について紹介いたします。

7月1日（金）に、公開研究会として下記のように授業を公開しました。檜山・渡島管内をはじめ、66名が公開研究会に参加しました。

習得型学習			
年	教科	単元名・教材名	授業者
第2学年	国語	6 言葉のはたらきをしよう 「うれくなる言葉」	新岡 里香 河野 美子
第3学年	算数	7 わり算を考えよう 「あまりのあるわり算」	高森龍太郎 永井 朋子
活用・探究型学習			
学 年	教科	単元名・教材名	授業者
第5学年	算数	5 小数のわり算 「小数のわり算を考えよう」	大山 里和 山本 雅樹
第6学年	国語	8 意見を出し合おう 「未来の自動車-パネルディスカッションをしよう-」	福山 央 上野 枝里

本校として今年度は、習得型学習と活用・探究型学習の授業実践に取り組んできました。当日は、その授業の様子や子どもたちの様子を見ていただきました。

参加者からのアンケート

- 子どもたちもスムーズに活動に取り組んでいました。
- 明確な目標に向けての取組の大切さを感じることができた。
- 学校全体に「隠れたカリキュラム」のようなものがあり、研究の成果につながっていると感じた。

などの感想をいただきました。



【習得型学習の授業についてのアンケートより】

- 「教えること」と「考え去ること」が明確化について、100%の肯定的な意見
- 「教える」では、子どものやり取りを大切に、子どもの考えを引き出しながら進めていたかについて、87%の肯定的な意見
- 「深める」「理解深化」では、その学年の実態に合った考えができる難易度になっていたかについて、93%の肯定的な意見

など習得型学習の授業を参観された方々から肯定的な意見を多数いただきました。

【活用・探究型学習の授業についてのアンケートより】

- 既習事項を活用し、習得した事を深める問題（めあて）になっていたかについて、88%の肯定的な意見
- ペアやグループでの学習により、学びが深まっていたかについて、80%の肯定的な意見
- 教師と児童、児童と児童の信頼関係が醸成されている雰囲気であったかについて、100%の肯定的意見

など活用・探究型学習の授業を参観された方々から肯定的な意見を多数いただきました。

『学校力向上に関する総合実践事業』 コーナー その4-②

【公開授業全般についてのアンケートより】

○学習規律（学習スタンダード7）の徹底について、92%の肯定的

○教師の指導はていねいで、子どもたちとの関係性の深まりが感じられたかについて、96%の肯定的意見

○発問や指示、板書など指導技術の基礎・基本を大切にする授業であったかについて、96%の肯定的意見

○進んで学ぼうとする態度が見られたかについて、92%の肯定的意見

○友達を協力して学ぼうとする態度について、100%の肯定的意見

など、「たば風南小のチャレンジ」として取り組んできた成果としては、参観された多くの方々

に肯定的に受け入れられたようです。

授業終了後は、公開した授業の教室で話し合いがもたれました。少人数グループに分かれて話し合う中、活発な意見交流がなされていました。授業を構想する時に使う指導案の拡大したものを使うことで、授業についての振り返りや話し合いが深まったようです。



授業についての話し合いが終了し、ホールに会場を移し、「学校力向上の取組及び成果・課題」について、主幹教諭の山本教諭が、「南小の研究の概要」について、研究部長の鈴木教諭が、それぞれスライドを使いながら説明しました。

学校力向上指定事業についてのアンケートより

○「学校としての一体感を感じられる取り組み」について、100%の肯定的な意見

○「目標やゴールの明確さ、明日からの教育実践に役立つもの」について、100%の肯定的な意見

など本校の取組について、肯定的な意見を多数いただきました。

全体会のまとめとして

檜山教育局義務教育指導班 指導主事 丸山 敏儀 様より

○付けたい力を明確にした言語活動と主体的に取り組める言語活動を明確にしていく。

○児童同士や異学年、教師との交流を通して、ものの見方や考え方を深めていく。

○意図的に学びの内容を振り返ったり、指示したりする。

檜山教育局義務教育指導班主査 湊 秀樹 様より

○考え、表現する能力を育むために児童が頑張っていた。「だって」「だから」という言葉を子どもから出させたい。

○うまく説明できなかった子が、補足して説明できるようになった。

○グループ学習を通して一人一人が全員、学びを深めていくことができたかが大事である。

また、学校力向上の取組については、「求められている項目が多岐にわたっている。学び続ける学校のモデルとして頑張っていることに感謝しています。教師個々ではなく、学校全体の組織として多様化している様々な問題に対応して欲しい。」とまとめていただきました。

公開研究会を通して、子どもたちは「学習の見通し」を持って学ぶことができてきました。学校ではさらに、子ども自身が積極的に相手とかわり、自分の考えを広げいくような日常実践を大切に、主体的に学習に取り組む態度を培っていきます。